

めぐみイエス・キリスト教会

2025年2月2日(日)第一主日礼拝

午前10時より

週報「通算第744号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れない。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌102「主は命を」 p. 142

【交読文】 No.51 マタイの福音書5章(抜粋) p. 920

【賛美Ⅱ】 新聖歌235「罪重荷を除くは」 p. 356

【使徒信条・主の祈り・前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル新曲「神様は」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書20章19節～29節

【礼拝説教】 《平安があなたがたにあるように》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ヨハネ20章19節～29節)新約p.228上段

20:19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちがいたところでは、ユダヤ人を恐れて戸に鍵がかけられていた。すると、イエスが来て彼らの真ん中に立ち、こう言われた。「平安があなたがたにあるように。」

20:20 こう言って、イエスは手と脇腹を彼らに示された。弟子たちは主を見て喜んだ。

20:21 イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされたように、私もあなたがたを遣わします。」

20:22 こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。」

20:23 あなたがたがだれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦されます。赦さずに残すなら、そのまま残ります。」

20:24 十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来ら

れたとき、彼らと一緒にいなかった。

20:25 そこで、他の弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ決して信じません」と言った。

20:26 八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。

20:27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。手を伸ばして、私の脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」

20:28 トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」

20:29 イエスは彼に言われた。「あなたは私を見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです。」

●ポイント1. 人を赦すことは？

※マタイの福音書6章14節～15節「山上の垂訓にて」(新約p.10上段)

6:14「もし人の過ちを赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。」

6:15「しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しになりません。」

●ポイント2. 主イエスが下さる平安とは？

※ヨハネの福音書14章27節「最後の晩餐にて」 (新約p.215上段)

14:27「私はあなたがたに平安を残します。私の平安を与えます。私は、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。」

※ヨハネの福音書16章33節「エルサレムをあとに」(新約p.219下段)

16:33「これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたが私にあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝ちました。」

◎先週のメッセージ【神の家族とは？】

《この記事は、三つの共観福音書に掲載されています。マルコの福音書によりますと、主イエスは、シモン・ペテロの家の中にいて、大勢の人々に囲まれていて座っていたことが分かります。その為、主の家族は入ることが出来ず、使いをよこしたわけです。

「ご覧ください。あなたの母上と兄弟姉妹方が、あなたを捜して外に来ておられます」すると、主は、「私の母、私の兄弟とはだれでしょうか。」そして、周りに座っている人たちを見回して、「ご覧なさい。私の母、私の兄弟です。だれでも神のみ心を行なう人、その人が私の兄弟、姉妹、母なのです。」と言われたのです。ここから、「神の家族」とは、霊的なつながりによって成り立つ家族であることが分かります。

ところで、なぜナザレから主の家族がやって来たのでしょうか。その理由は書かれてはいませんので推測するしかないのですが、故郷の人々が、母マリアに「イエスを迎えに行ってナザレに連れ戻した方が良い」と言うアドバイスをしたのではないかと、私は考えています。

主イエスは長男でしたが、その下に、ヤコブ・ヨセ・ユダ・シモンと言う四人の弟がおり、あと二人以上の妹たちがいました。この時、主の弟と妹たちは、誰も信仰を持ってはいないのです。また、母マリアも、まだ主と行動を共にしてはいません。しかし、十字架と復活後には、使徒たちは、ヨハネ・マルコの家において、女たちとイエスの母マリア、およびイエスの兄弟たちと共に、いつも心を一つにして祈っていた、と書かれています。主の十字架刑の時には、故郷ナザレで震えおののいていた弟と妹たちのこの激変は、復活の主に出会った以外には考えられないからです。主は、弟子たちを愛しておられましたが、ご自身の家族をも愛しており、また非常に大切にされたのです。

肉にある家族が、霊的にも真の家族になることは素晴らしいことです。その為にも、忍耐を持って祈り続けて行こうではありませんか。》

◎お知らせ

※次回は2025年2月9日午前10時より、通常通り行ないます。